

9. 地方独立行政法人 青森県産業技術センター畜産研究所

金澤 勝昭・間山 潤二*

青森県産業技術センター畜産研究所は県庁所在地の青森市から45km程東に本所(野辺地町、面積186ha)が位置し、青森市から55km程西には和牛改良技術部(つがる市、面積36ha)があり、岩手県との県境には和牛改良資源部(田子町、面積2.4ha)があります。

畜産研究所の歴史は古く、昭和24年の青森種畜場からスタートし、同31年には畜産試験場に改名し、また、同39年には現在のつがる市森田町に畜産指導所が創設されました。同62年には同指導所が畜産試験場森田支場に改組され、平成13年度には同支場が和牛改良技術センターに改称し、また田子町に和牛改良資源センターが新設されました。

平成21年度からは地方独立行政法人化され、畜産研究所(野辺地町)、和牛改良技術部(つがる市)、和牛改良資源部(田子町)との名称に変更されました。

部の構成は本所が繁殖技術肉牛部、中小家畜シャモロック部、酪農飼料環境部の3部、それに和牛改良技術部と和牛改良資源部を加えて5部体制です。職員数は全体で事務職4名、研究員22名、技能技師37名、再雇用7名、非常勤4名で合計74名です。

各部における取組と主な研究課題・事業を紹介します。

I. 繁殖技術肉牛部

超音波診断装置を利用して生体から未受精卵を取り出し、体外受精を行い、得られた2細胞期胚を分離することで、効率よく一卵性双子を生産する技術や飼料米等利用による牛肉のおいしさを高める飼養管理技術の研究に取り組んでいます。また、最近の話題を紹介しますと、受精卵移植での過排卵処理過程における卵胞刺激ホルモン(FSH)の皮下1回投与法を開発して、平成23年1月開催の国際胚移植学会で発表して高い関心が寄せられています。



畜産研究所(本所)



一卵性双子

* 連絡者：間山 潤二

(青森県産業技術センター 畜産研究所)
〒039-3156 青森県上北郡野辺地町字枇杷野51
Tel. 017-64-2231 Fax. 0175-64-2230
E-mail junjii_mayama@aomori-itc.or.jp

Ⅱ. 中小家畜シャモロック部

地域未利用資源の有効活用による子豚の発育向上技術の開発や採卵鶏及び肉用鶏の改良増殖を行い、あすなる卵鶏及び青森シャモロックのひなを供給しています。特に青森シャモロックは特産地鶏としての評価が高く、宮内庁御料牧場へひなを供給しています。

Ⅲ. 酪農飼料環境部

牧草の新系統について、本県気象環境下における生育特性及び生産性を明らかにしています。また、乳牛の周産期病の原因となっている潜在的な低カルシウム血症の予防対策、暑熱ストレスを軽減する技術を明らかにしています。また、最近注目される分野である畜産環境へ対応する研究として、畜舎内悪臭防除技術や酪農排水処理技術を確立するための研究にも取り組んでいます。

Ⅳ. 和牛改良技術部

青森県が全国に誇る糸桜系種雄牛「第1花国」の後継牛として、「第2花国」が平成20年に基幹種雄牛に指定されました。また、兵庫系種雄牛としては「雪国」、「照神12」、「福安」が既に基幹種雄牛に指定されていますが、新たに平成23年度末に「優福栄」が基幹種雄牛に指定されることが確実となり、県内生産者からは第1花国の娘牛への交配相手として大いに期待されています。なお、種雄牛を造成している多くの都道府県が研究を進めているゲノム解析研究には、平成19年度から参加して、遅れを挽回するべく頑張っています。

Ⅴ. 和牛改良資源部

受精卵移植技術による優良種雄候補牛の生産と、同技術の実証展示を主な業務としています。平成23年度末に基幹種雄牛に指定される「優福栄」は同部の生産牛であり、今後の活躍を期待しています。

なお、行財政改革の一環として、研究所のスリム化を計画してきましたが、この度、平成23年度末をもって当部の業務を本所に移管し、和牛改良資源部は廃止することが決定しました。



試験乳牛舎



東日本の横綱「第1花国」



期待の種雄牛「優福栄」